

## 平成 18 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

### 2 水質環境の保全に関する研究

「相模湖・津久井湖の水質汚濁の実態解明」

[総合評価とコメント]

- 県内主要湖沼の富栄養化対策を進めるにあたり、窒素・リンの収支を詳細に説明することは重要なことです。本課題は、既存の同種調査等に比べると富栄養化のメカニズムを意識した詳細な調査研究になっていますが、研究遂行上ならびに富栄養化対策を立案する政策上から山梨県との連携が不可欠と考えられますので、この点について配慮をして頂ければと思います。研究計画については妥当と思います。
- 目的指向であるべき研究プロジェクトとしては、負荷量調査に止まっている印象が強い。相模湖、津久井湖の水質汚濁の実態解明から一歩進めて、効果的な対策の立案まで考慮した研究プロジェクトとすべきで、具体的な施策に結びつくことを期待したい。
- 1 長期的歴史的な測定値の変動を把握するように留意していただきたい。いつから、富栄養化が始まったのかきちんと把握することが、研究の基本データとして大切である。  
2 「自然系由来の負荷」と「人為的活動由来の負荷」とは、単純に二分できないのではないだろうか。総体として的人為的・社会的活動が、自然条件にさまざまな影響を与えているはずである。負荷発生についての自然的要因と人為的要因の複合モデルのようなものが必要と思われる。  
3 「複合的な視点」の提起は適切と思われるが、そのためには、例えば、水量の把握が必要であり、そのためには、利水のあり方とその歴史的変遷の把握も必要となるであろう。  
4 従来も、負荷量発生源調査はなされてきているのである以上、従来のデータでは対策をとるために何が不足しており、今回の研究では、対策をとるために有効なデータとして、なにを入手しようとしているのか、ということクリアに意識してほしい。
- 県民の水源であり、関心が高いテーマであるが、対策に具体性が見えない。  
これまでの調査とは違う視点で調査を行ったときに見えてくるもの＝想定される結果に対し、予め有効な対策候補案が挙げられていないと、調査だけに予算を使い続けることにならないか、懸念される。  
大気汚染の寄与の定量化は重要である。ただし、やはりその結果の有効利用が重要。例えば、自動車排ガスの NO<sub>x</sub> 規制につなげれば相模湖、津久井湖に流入する窒素汚濁負荷の 20% は削減可能、などが言えれば効果が分かり易い。
- 県民の貴重な水源の水質を保全しようという非常に重要な課題だと思います。最終的な目標は水質保全でしょうが。それにはまず、水質汚濁の実態解明（原因究明）が必要なので、この取り組み方でよいと思います。上流域での生活排水の影響はどのよ

うに見積もるのか、説明のほしいところです。

- 当該研究遂行の意義が高いことは衆目の一致するところである。一方では、現在の汚濁レベルが長期的にも継続している実態を解明するためにここに述べられている手法で充分であるのか、それへの明確な見通しが求められていると言える。

大気由来の検討に新規性があるように窺われるが、神奈川県の従来の大気質測定結果を用いての予備検討はされているのであろうか。さらに精緻なデータが得られれば説得力のある結果となりうるのか、事前の検討が必要であろう。

(数値的評価)

★評価者 6名

<評価の内容>	<評価項目>	<ランク>				
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (1人)	4 (3人)	3(2人)	2(0人)	1 (0人)
	○優先性	5 (2人)	4 (1人)	3(3人)	2(0人)	1 (0人)
計画の立案と実施法	○研究内容	5 (1人)	4 (0人)	3(4人)	2(1人)	1 (0人)
	○計画の妥当性	5 (0人)	4 (2人)	3(4人)	2(0人)	1 (0人)

※ランクは、5点満点の評価で 5(優)～1(劣)